就実教育実践研究センター2026年度研修会vol.1 報告

8月29日（土）10時より、就実こども園の遊戯室にて、本学教育学部の三好年江准教授による研修会「安心の先にある育ちを考える―『心の安全基地』から一歩踏み出し、主体的に活動する子どもへ―」が開催されました。当日は同園職員のほか、浜保育園から1名、宇野こども園から5名の先生方にご参加いただきました。

日頃の保育を近くの方と語り合う和やかな雰囲気の中、講演は始まりました。内容は、アタッチメント理論の正しい理解、安心感の先にある挑戦や探究を支える保育者の役割、ご自身が立ち会われた魅力的な保育実践例などで、三好准教授からの「子どもにとっての安心とは？」という問いかけに対し、参加者がグループワークを実施し、各園での経験や自身の思いを語り合い、活発な意見交換が行われました。また、他園での取り組み事例紹介では、保育に対する先生方の熱い思いが伝わる有意義な時間となりました。

当センターでは、今後も地域の保育・教育の発展に寄与できるよう、さまざまな活動に取り組んでまいります。

～参加者の感想（一部抜粋）～

・愛着を育てていくことは、子どもの中に安心という土台ができ、その後の人生においてもとても大切な土台となっていくということ、その土台づくりが幼児期に最も大切であり、その役割を保育者も担っているということを改めて学ぶことができました。多園のわくわくする実践を知り、「子どもについての豊かな環境」について考えながら保育していきたいと思いました。貴重な機会をいただきありがとうございました。このような機会があれば、またぜひ参加させてください。

・1歳の担任をしています。4月の入園当初は保護者から離れる時や新しい環境に不安を感じて泣き続けていた子ども達ですが、今では探索活動が盛んになり、保育者の傍から離れて活発に遊ぶことが多くなりました。今回の研修を通して、安心感の輪が常に広がっていることで、子ども達は安心して外の世界で挑戦することができ、自立に繋がっていくと学びました。子ども達の安心感の先にある興味・関心から主体的に活動できるよう、子ども側と保育者側の双方の視点に立って日々の保育を考えていき、子ども達がいろいろな経験を積み重ねていけるようにしたいと思いました。

・「不安にならないようにするのではなく、不安になった時に解消していく」というお話が印象に残りました。今までは、「不安にならないように・・・・」と考えてしまうことが多かったように思います。子どもの姿に合わせて、不安を解消していくことの大切さを感じました。これからも日々振り返りながら、子ども一人一人が安心して自己を発揮できるように保育を進めていき

たいです。いろいろな場面で想像したり、考えたりしながらお話を聞くことができ、学び多い時間でした。ありがとうございました。

・アタッチメントが作る安心の輪を基本に子ども達の安心と挑戦の循環を通して子どものウェルビーイングを高めることについて考えました。日頃から子どもの主体性を育てることについて話し合いますが、考えが整理でき、すっきりとした感覚が生まれました。我が園は、心が動く体験がどれだけできているだろうか、職員がどこを目指しているだろうか・・・。個々の職員と向き合いながら、個々の職員の納得解にたどり着くように互いに正しく学ぶことの大切さを感じました。また、このお話は、園運営にも、職員の育成にも当てはまることだと感じ、忘れないようにしたいです。安心できる園運営をめざし、職員が安心して働き、力を発揮し、保育者と子ども達が共に主体的な保育ができるように考えたいです。保育者の主体性について特に考えていきたいです。

問いかけをもとに、語り合う参加者たち

事例の子どもの様子に、共感！

子どもの「安心」について発表

熱心に語り合う様子